

# Responsible Care 2013

レスポンシブル・ケア報告書

Responsible  
Care 2013

レスポンシブル・ケア報告書

お問い合わせ先

関西熱化学株式会社 RC推進会議事務局  
TEL : 06-4300-5366 (CSR推進部)  
FAX : 06-6491-9681



この印刷物は環境への配慮のため、責任ある森林からの原料を含む「FSC®認証紙」、および植物油インキを使用しています。



関西熱化学株式会社  
KANSAI COKE AND CHEMICALS CO.,LTD.

## ごあいさつ

2013年11月  
関西熱化学株式会社 取締役社長

朝比栄一



「レスポンシブル・ケア(RC)報告書2013」発刊にあたり一言ご挨拶申し上げます。

関西熱化学グループは、今年3月に2013年～2015年の新中期計画を策定しました。策定に当たっては、最近の厳しい経済環境を考慮し、生き残りを賭け、徹底した体質強化を行い、「真に強い関西熱化学グループ」を築くことを中期ビジョンとしました。

この中期計画の達成には、一人ひとりの実践が不可欠であることは言うまでもありません。そこで、「機会を逸することなく遅れずに行動し、確実に目標を実現する」ことを全員が認識するため、「人は考えるから行動する。Action15 今がその時」をキャッチコピーに選定しました。前中期計画での「考える」ことを定着させ、さらに結果にこだわった活動を実践していきます。

さて、RC活動10年目の昨年は、関西熱化学において、全社無災害を達成するとともにRC活動上のトラブルも低減することができました。これは、社会に「レスポンシブル(責任を負う)たれ」とのRC宣言の精神が、全社員に浸透した成果であると考えています。

レスポンシブル・ケア(RC)とは、企業が自主的に「環境保全」「保安防災」「労働安全衛生」「化学品・製品安全」の取り組みを行い、その成果を公表して社会とのコミュニケーションを図る活動です。関西熱化学は、日本レスポンシブル・ケア協議会(JRCC)に参加し、RC活動を展開しています。

しかし、私たちを取り巻く経営環境は年々厳しさを増すとともに、大きく変貌を遂げており、CSR(企業の社会的責任)の重要性が高まっています。

そこで、関西熱化学グループでは、これまで同様RC活動とコンプライアンスの二つの柱にリスク管理を加えてCSRの強化に取り組んでまいります。

さらに「原理・原則」に立ち返った活動を実践し、「人づくり」を推進して確実に目標を達成していく所存です。

今後とも、RC活動の実践によって、人にやさしい、地球にやさしい、そして進化する「真に強い関西熱化学グループ」を目指していきます。

本レポートは、グループ全体の2012年度RC活動への取り組みについてご紹介しております。ご高覧のほど宜しくお願い申し上げます。

### 対象期間 / 対象組織

この報告書は2013年度版として、2012年4月1日から2013年3月31日までの関西熱化学および関西熱化学グループのRC活動に関する活動実績に基づいて作成しました。

## 関西熱化学グループ経営理念

### 「人を財とし、自然を財とし、新たな価値を創造する」

#### 「人を財とし」

関わる全ての「人」を財産として考え、行動します。

#### 「自然を財とし」

「自然」を財産として考え、地球環境の保護、限りある資源の有効活用のため、行動します。

#### 「新たな価値を創造する」

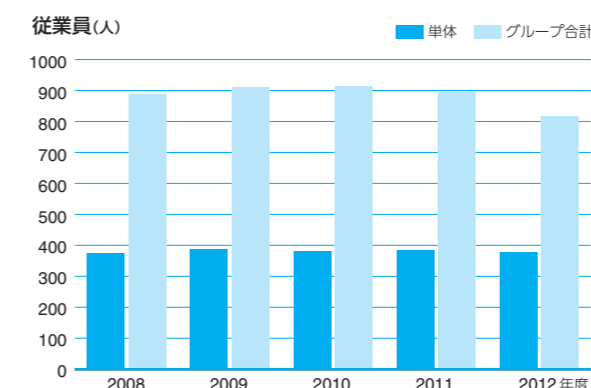
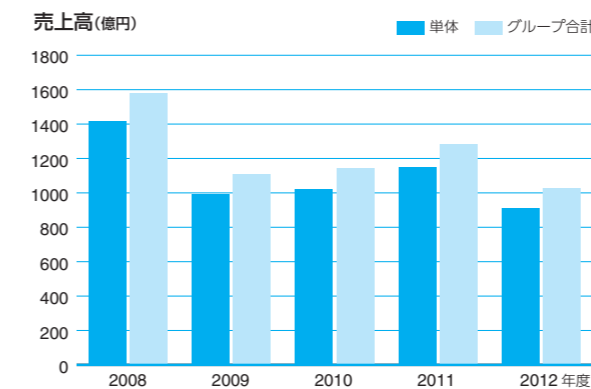
「人」「自然」の融合から、新たな価値創造へ向け、挑戦し続けます。

## 安全第一主義

### 「安全なくして経営なし」

### 関西熱化学概要

社名	関西熱化学株式会社 KANSAI COKE AND CHEMICALS CO.,LTD.
本社	兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号 TEL 06-4300-5300(代表) ホームページ <a href="http://www.tkcc.co.jp">http://www.tkcc.co.jp</a>
代表者	取締役社長 朝比 栄一(あさひ えいいち)
設立	1956年(昭和31年)8月1日
資本金	60億円
事業内容	●製鉄用コークスの製造販売 ●ガス、コールタールなどの化成品の製造販売 ほか
事業所	尼崎事業所 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地 TEL 06-6416-1331 研究開発センター 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地 TEL 06-6416-5951 加古川工場 兵庫県加古川市金沢町7番地 TEL 079-436-1500
グループ会社	株式会社MCエバテック/大阪化成株式会社/尼崎ユーティリティサービス株式会社



## CONTENTS

ごあいさつ	1
関西熱化学概要	2
特集「関西熱化学 2012年度無災害達成」	3
RC基本方針・RC推進体制	5
リスク管理の取組み	6
環境への取組み	7
安全への取組み	11
製品安全への取組み・RC活動トピックス	12
コンプライアンスへの取組み	13
情報セキュリティへの取組み	14
社会とのコミュニケーション	15
2012年度計画と実績・ マネジメントシステムへの取組み	16
グループ会社のRC活動への取組み	17

# 特集「関西熱化学 2012年度無災害 達成」

2012年度関西熱化学は、全社年度無災害を達成しました。加古川工場(安全衛生協力会社を含む)、尼崎事業所、研究開発センター、本社が同時に無災害を達成するのは実に10年ぶりのことです。

関西熱化学グループのRC活動は、2001年10月に経営トップによるRC宣言によってスタートしました。

「安全なくして経営なし」の基本理念のもと、RC宣言に基づきリスクアセスメントを活用したリスク低減活動、新人作業員へのOJT(実地訓練)の実施、毎月の安全パトロールの実践やヒヤリハットの全員提出等、安全管理計画に沿って全員の安全意識を高揚させる地道な活動を継続的に実施して参りました。

近年では、毎日の始業ミーティングを安全に関する事項から開始することにより、さらに安全意識を

向上させることや、教育施設である三學館を最大限に活用した安全教育を実施してきました。特に入社5年目までの社員については、安全に関する基礎教育とともに三學館に設置した道工具や装置を用いた体感教育によって、危険に対する感性の向上を狙った研修を実施し、効果を上げています。

尼崎事業所では研究開発センター、MCエバテック社、尼崎ユーティリティサービス社とともにRCに関する行事を企画し、安全意識の高揚を図るとともに、定期的な会議やパトロールの実施によって、一体感のある活動をリードしました。研究開発センターでは声掛け運動によって相互助言を活性化させる等、安全推進員自らが企画した施策を実践することで、自律的なRC活動の推進を図りました。

生産活動の拠点である加古川工場では『「安全はすべてに優先する」を実践し、「危険な作業は絶対にしない・させない」に徹する』を基本方針に2012年度は以下の重点実施項目を実施し、成果を挙げました。

## 1. 三現主義による安全確認・点検の徹底

「現場はいつも変化している」ことを前提とし、現地での危険予知活動、設備老朽化対策を含めた安全点検パトロールおよび工事・作業の安全巡視等現場重視での活動強化を図ってきました。

## 2. リスク低減活動の推進

各作業におけるリスク低減対策は、抽出された重大リスクについて計画的に本質安全化を進め、現地のパトロールによって安全性を確認することを実施してきました。

## 3. 労働災害に学ぶ

類似・潜在災害の防止の一環として、「安全DB(データベース)」を構築し、職場災害事例検討に活用し、個々人の災害に対する「身がまえ・心がまえ」を養成しています。

## 4. 安全衛生協力会社とともに取り組む安全活動

安全衛生協力会社によるパトロール、ヒヤリハット活動に対して、強力な支援を行ってきました。さらに工場と協力会社間でのRC対話を定期的に行い、情報の共有を図るとともに安全確保へ個別の指導を行いました。

今後も関西熱化学グループは「安全なくして経営なし」の基本理念のもと、これまでの活動を進化させ、三現(現場・現物・現実)主義に原理・原則を加えた5ゲン主義によって、安全第一主義の実践(労働安全、環境安全、品質安全)を目指していきます。

加古川工場2012年度無災害達成記念植樹



協力会社を交えた安全打合せ



協力会社を交えて工事の安全対策について綿密に打合せ

三學館の体感教育



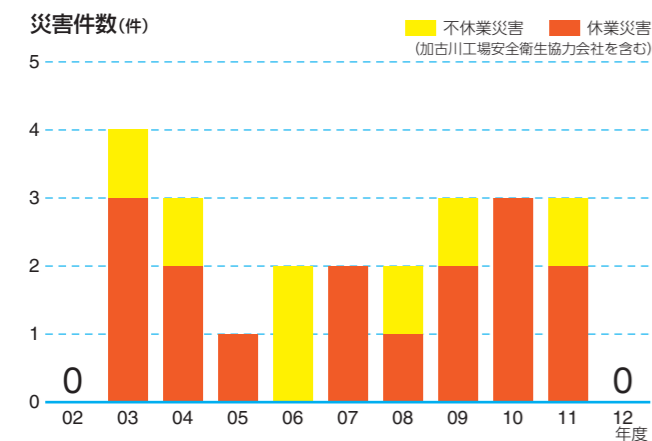
道工具や装置を用いて体感することで感性の向上を狙った教育

RCパトロール



会社トップによる安全対策箇所などの現地確認

関西熱化学における労働災害発生状況



研究開発センターの声掛け運動



声を掛けられて良かったことや、感謝したい人の名前を書いた用紙を掲示する新たなコミュニケーションツール

現地の工事安全対策状況



工事を安全に施工するために設備を使用する部署、工事を計画する部署、工事を実施する協力会社の三者による現地のバルブのロックなどの安全対策

ゼロ災決起大会



夏季を迎える前に安全意識の向上を図るため、ゼロ災決起大会を開催

# RC基本方針・RC推進体制

## RC基本方針

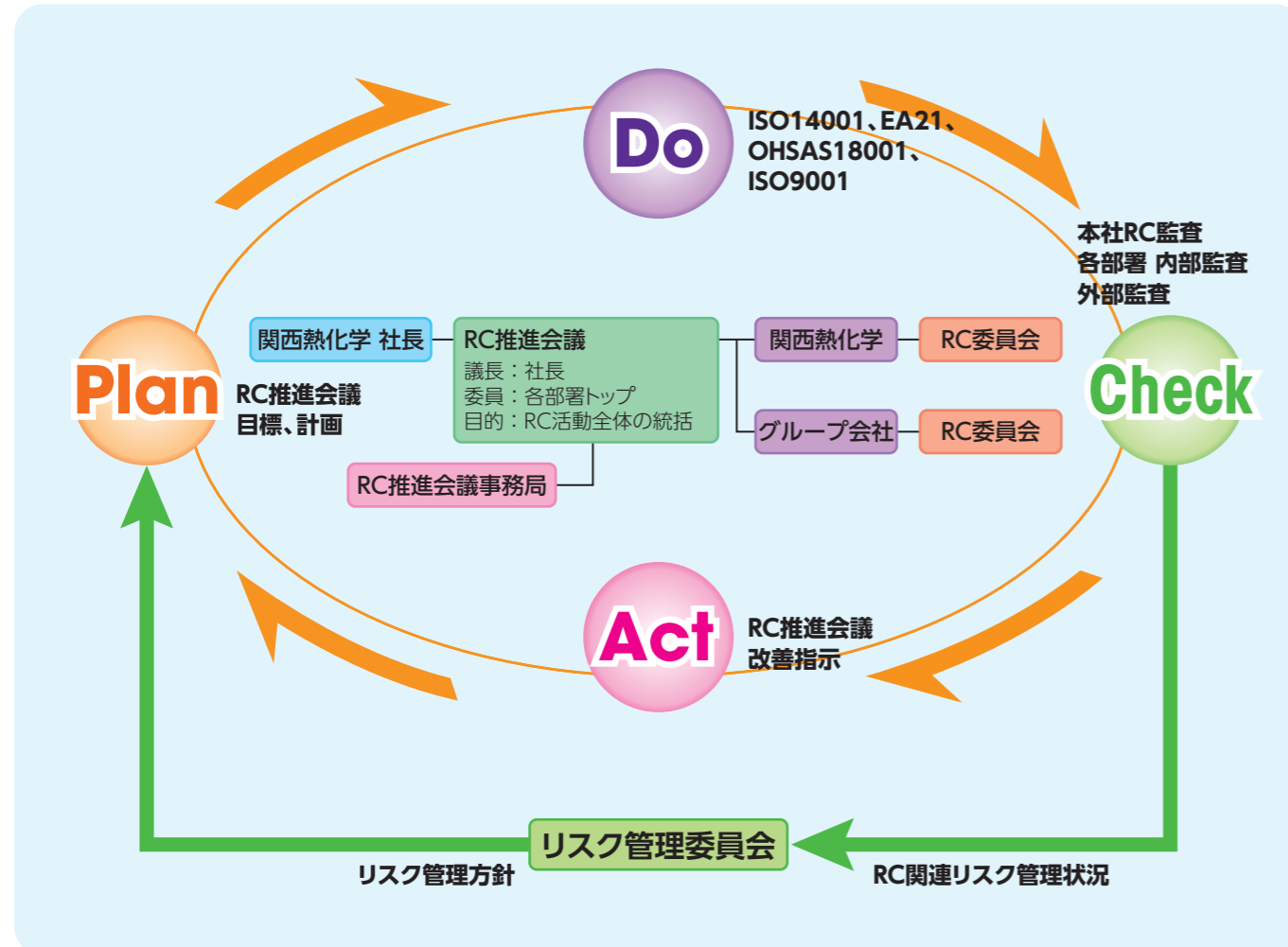
- ① 「環境・安全」の確保を、企業存立の必須要件として企業活動を行う。
- ② 無事故・無災害の操業を続けることにより、従業員と地域社会の安全を確保する。
- ③ 製品の開発から廃棄に至るまで、製品の全ライフサイクルにおいて、環境の保護および製品の安全に配慮する。
- ④ お客様が満足し、かつ、安心して使用できる製品・サービスを提供する。
- ⑤ 法令等の遵守はもとより、この基本方針の重要性を認識し、自らの責任を自覚した行動に努め、社会からの信頼向上を図る。

## RC推進体制

関西熱化学およびグループ会社の代表からなるRC推進会議が環境・労働安全衛生・保安防災・品質の推進に関する基本事項を定め、グループ全体のRC活動を総括します。RC推進会議では、前年度のRC活動の成果と、リスク管理方針に基づいて年次のグループRC活動方針、RC目標およびRC計画が承認され、また計画の全社的な

進捗管理が行われるとともに、RCに関連する重大リスクについて、管理状況の確認が行われます。このRC推進会議のもとで、各部署に組織されているRC委員会が具体的な活動を推進します。RC活動は主に、本社RC監査、RCパトロール、内部監査および外部監査によってチェックされることでPDCAサイクルが確保されています。

## 推進体制とPDCAサイクル



# リスク管理の取組み

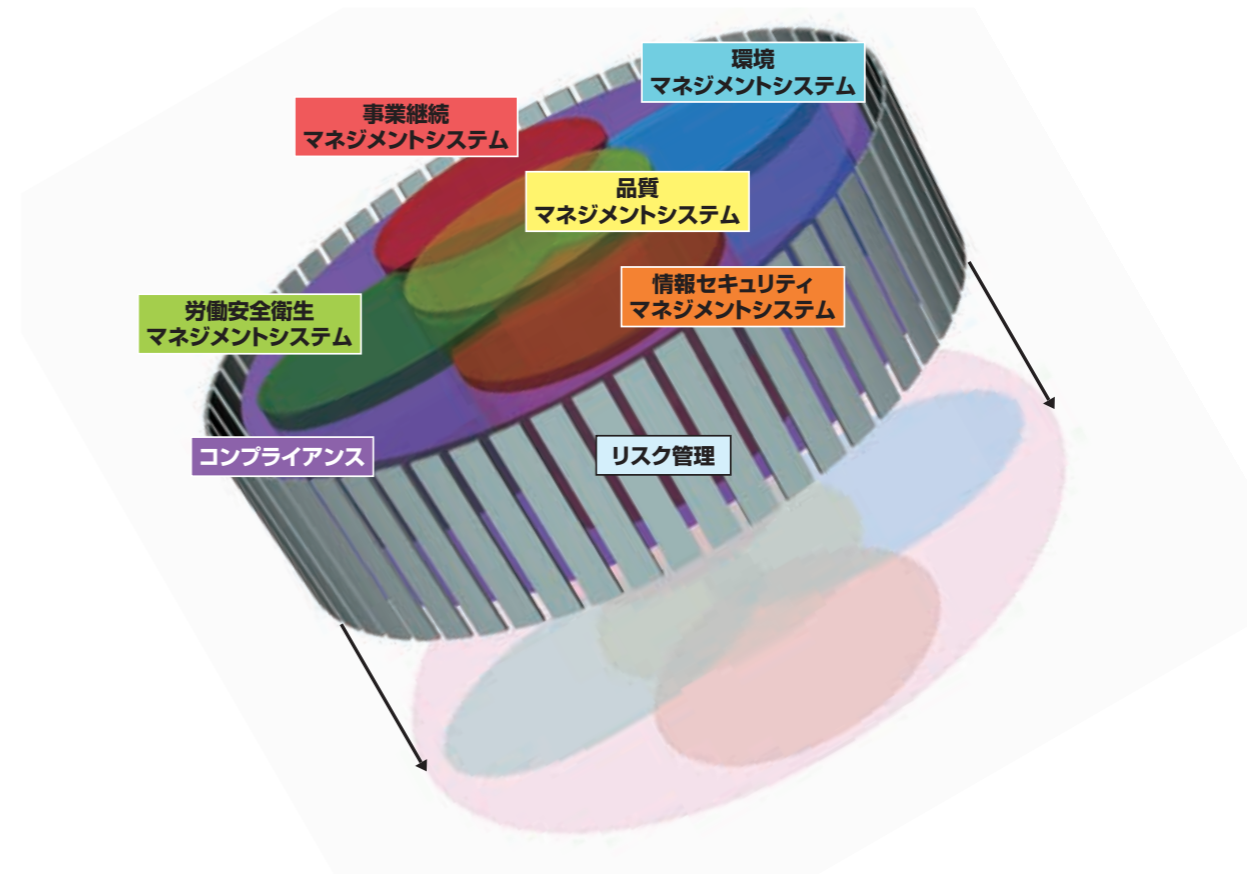
## リスク管理

関西熱化学グループでは、リスク管理を経営の根幹を成すものと位置づけています。

事業のリスクは、自然災害や保安事故、新型感染症の大流行など多岐にわたります。各部署のリスクを定量的に把握し、管理することで、各々の活動の仕組みやマネジメントシステムによって運営している業務や事業がクライシス(非常事態)によって瓦解しないように、リスク管理という枠組みにより保護しています。

各部署にて事業リスクの抽出、評価、対応策の策定を行い、RCに関連するリスクについてはRC推進会議、情報セキュリティ(P.14)に関するリスクについてはISMS推進会議など、リスクの種類ごとに関連する推進会議体によりリスク評価や対策の妥当性を確認するとともに、特に重大なリスクについては、リスク管理委員会にて対策実行状況の管理を行います。

## 関西熱化学グループ リスク管理の考え方



## 事業継続計画 (BCP)

関西熱化学グループでは、地震・津波などの大規模災害の発生および、新型インフルエンザの大流行に対して適切な初動対応を行うことで事業活動への影響を最小限に留めるための事業継続計画 (BCP: Business Continuity Plan)の構築と運用に努めています。2009年度のA/H1N1型インフルエンザ流行時にもBCPを発動させ、適切に運用することで、従業員の罹患や社内での感染拡大を最小限に留めることができました。

また、地震・津波対応BCPについては、内閣府中央防災会議の「南海トラフ巨大地震モデル検討会」による想定に基づいて、従業員の安全を確保するための仕組みを構築しています。



# 環境への取組み プロセスフローと環境への影響 (加古川工場)

## INPUT

原料石炭	3,199千t
エネルギー消費量	8,100TJ(試算値)
工水・上水	1,510千m <sup>3</sup>
海水	32百万m <sup>3</sup>

## OUTPUT

【主製品】	
コークス	2,380千t
コークス炉ガス	1,001MNm <sup>3</sup>
コールタール	113千t
粗軽油	37千t
液体アンモニア	7千t
硫酸	15千t
【大気質】	
SOx	263t
NOx	1,415t
CO <sub>2</sub>	385千t(試算値)
PRTR物質	5.4t
【水質】	
排水	2,482千m <sup>3</sup>
COD	134t
PRTR物質	1.0t
【廃棄物質】	
リサイクル量	35千t
外部最終埋立処分量	65千t



### コークス製造プロセス

### ガス精製・化成品製造プロセス



# 環境への取組み

## 地球温暖化の防止 CO<sub>2</sub>排出量は1990年度比で23%削減

2012年度は、長期間の定期検査実施によるCDQ設備の停止のために蒸気回収量が減少し、2011年度比でエネルギー原単位が若干増加しましたが、1990年度比ではエネルギー原単位とエネルギー使用量が8%、CO<sub>2</sub>排出量が23%削減されています。

また、自然エネルギーの活用として、広島県竹原市吉名町に出力1,200kWの吉名メガソーラー発電所を建設し、2013年9月より稼働を開始しています。太陽光により一般家庭340戸分に相当する年間約120万kWh以上の発電を行うことで、エネルギーの面からも地球温暖化の防止に貢献します。

今後も、省エネ技術や省エネ設備の導入および拡販によってCO<sub>2</sub>削減を推進してまいります。



吉名メガソーラー発電所

## 粉じん飛散の防止 粉じん飛散防止の各種対策を継続実施中

2008年度以降、集じん設備の増強強化および堆積粉の除去、清掃の強化などを実施していますが、2012年度はさらに貯炭場の散水を効果的な方法に改善したことや、石炭・コークス輸送用ベルトコンベアのクリーナーを

改善したことにより、粉じんの飛散を防止することで、降下ばいじん自主管理目標値を2年連続で達成しました。今後も、粉じん飛散防止に積極的に取り組んでまいります。

## 大気汚染防止 2011年度比でSO<sub>x</sub>排出量は9%削減、NO<sub>x</sub>排出量は5%増加

工場内消費ガス精製工程での脱硫設備のリフレッシュ工事が完了したことで脱硫効率が向上し、SO<sub>x</sub>排出量が2011年度比9%削減されました。

NO<sub>x</sub>排出量はコークス生産量が増加したことに伴い、2011年度比5%増加しました。

## 水質汚濁防止 負荷量・排水量とも安定して推移

COD負荷量・排水量とも、1994年の尼崎工場休止以降、COD負荷量は1/3程度、排水量は1/10程度のレベルで安定して推移しています。

また、加古川工場内で使用する貯炭場散水などの水は、工場内で発生する水を再利用することで、工業用水使用量の抑制を図っています。

## 化学物質の適正管理 (PRTR) 水域へのマンガン排出を大幅削減

排水処理設備における凝集剤使用の適正化を図ったことで、水域へのマンガン排出量を2011年度比で約40%削減しました。

また、ベンゼンについては排出設備の維持管理を徹底

したことから、2011年度に続いて環境基準値(年間平均3.0μg/m<sup>3</sup>)を達成しました。引き続き大気への排出対策設備の維持管理を徹底し、排出抑制に努めています。

## 資源循環対策への取組み (廃棄物の削減)

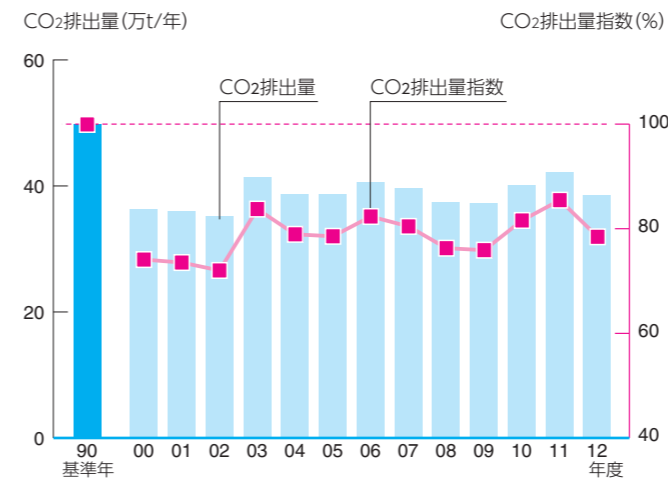
2012年度の加古川工場の産業廃棄物リサイクル率は99.8%となり、ゼロエミッション(産業廃棄物99%以上リサイクル)を継続達成しています。また、マニフェスト(産業廃棄物管理表)を交付して適正に管理するだけでなく、最終埋立処分場に出向き適正に処分されていることを

### ゼロエミッションを継続達成

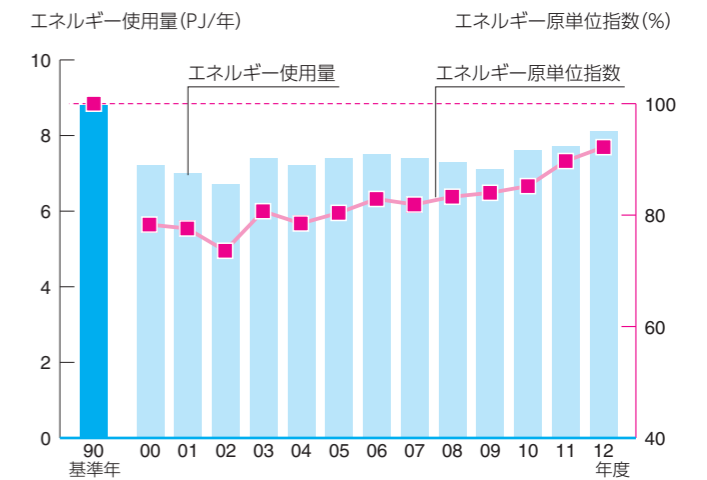
確認しています。

全事業所のオフィスでは、OA用紙使用量の削減、各種紙類の回収リサイクルボックスの活用など、紙資源の削減やリサイクルを促進するエコ活動を継続しています。

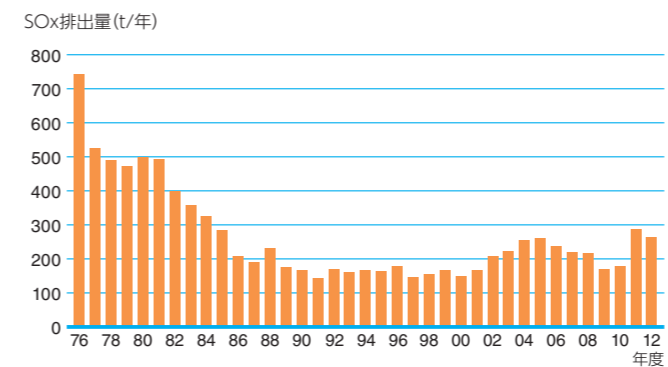
CO<sub>2</sub>排出量およびCO<sub>2</sub>排出量指数推移 (加古川工場 試算値)



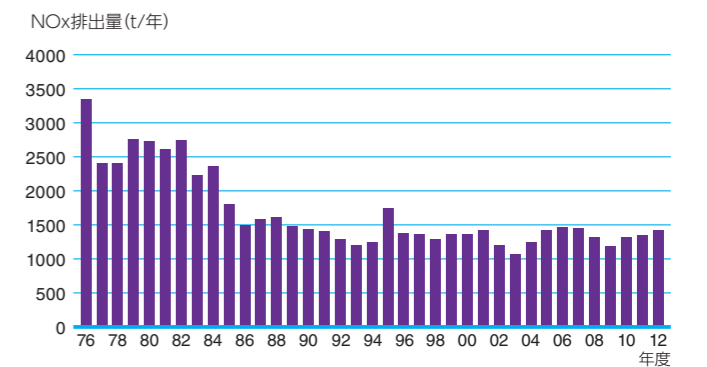
エネルギー使用量およびエネルギー原単位指数推移 (加古川工場 試算値)



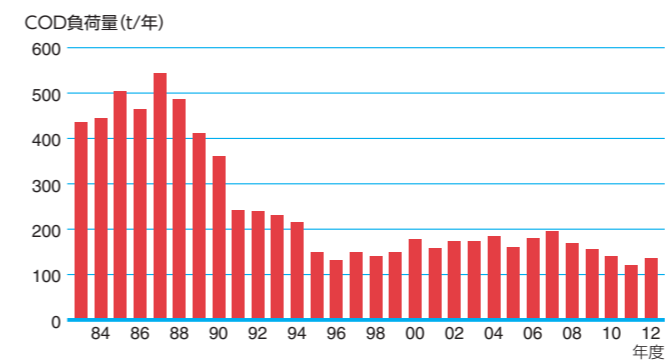
SO<sub>x</sub>排出量推移 (全社)



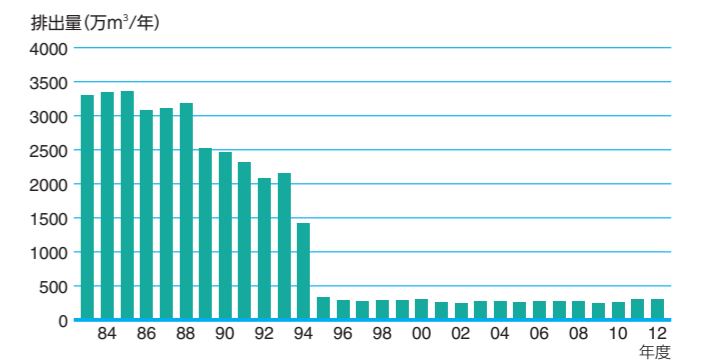
NO<sub>x</sub>排出量推移 (全社)



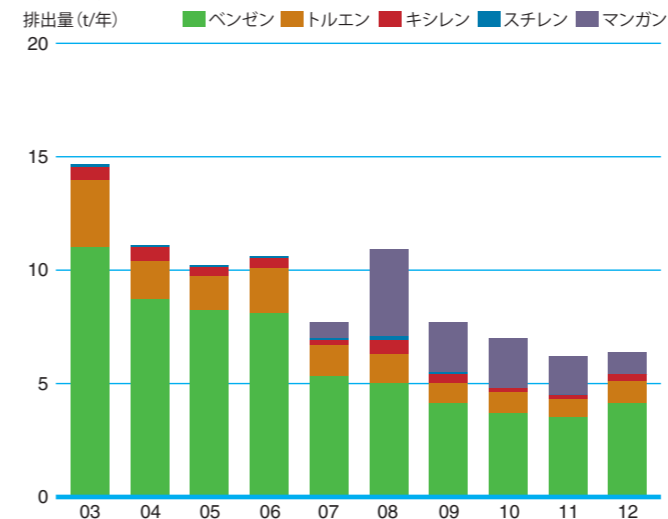
COD排出量推移 (全社)



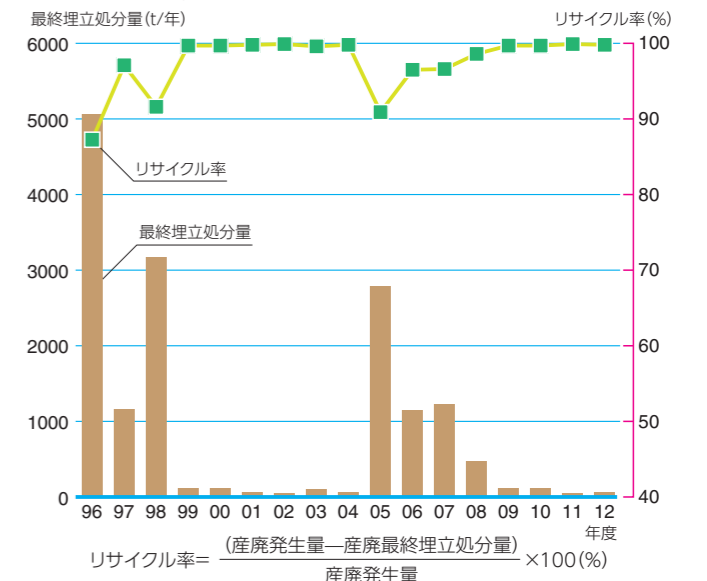
排水量推移 (全社)



PRTR法対象物質排出量推移 (加古川工場)



産業廃棄物最終埋立処分量およびリサイクル率推移 (加古川工場)



$$\text{リサイクル率} = \frac{(\text{産廃発生量} - \text{産廃最終埋立処分量})}{\text{産廃発生量}} \times 100(\%)$$

※2010年度以降は非建設系産業廃棄物を集計

# 安全への取組み

加古川工場では、労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS18001)に基づいて職場の潜在的な危険や有害な要因を見つけ出し、設備改善などでそれらを低減・除去することにより、保安事故および労働災害の未然防止を図っています。

## 保安防災

保安事故ゼロを目指し、さまざまな自主保安活動を行っています。

### ●保安事故防止への取組み

定期的に加古川工場主催の「工場安全パトロール」を実施するだけでなく、本社主催の「RCパトロール」や「本社RC監査」を実施し、設備の安全状況の確認や問題点を摘出して、再発防止や予防措置ならびに防災体制の整備充実に努め、保安事故防止を図っています。

### ●保安防災訓練の実施

法定により実施すべき高圧ガス設備の防災訓練をはじめとして、工場総合防災訓練、隣接する神鋼社加古川製鉄所との合同防災訓練、東播磨地域特別防災区域加古川播磨協議会などの連携による保安防災訓練を実施しています。

### ●保安事故実績

2012年度は1件の保安事故が発生しました。保安事故ゼロを目指し、発生防止に努めてまいります。

## 労働安全衛生

全従業員が労働安全衛生活動に参加し、労働安全衛生レベルの向上に取り組み、労働災害ゼロの継続を目指して活動しています。

### ●労働災害防止への取組み

新入社員および入社5年未満の若年層やグループ会社の監督者の方を対象とした安全基礎研修の実施やOJTを中心とした部下への指導を行なうことだけでなく、工事におけるセーフティアセスメントの実施や各作業におけるリスクアセスメントで抽出された重大リスクに対して、設備改造など本質安全対策を実施することで労働災害発生防止に取り組んでいます。

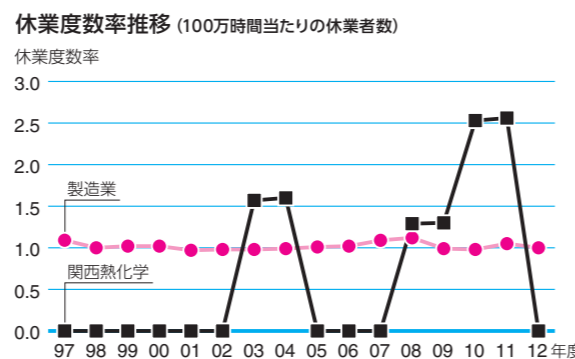
### ●こころとからだの健康づくり支援

関西熱化学グループでは安全は健康からと捉え、「こころとからだ」の健康管理の充実を目指した施策を積極的に推進しています。

メンタル面では、社外専門家によるケア体制の確立、管理監督者への研修やセルフケア研修の実施、また厚生労働省の「職業性ストレス簡易調査票」をベースにした、情報端末を利用した個人・職場のストレスチェックを行っています。



加古川工場総合防災訓練



メンタルヘルスクア研修

また、生活習慣病予防改善のため「特定健診・特定保健指導」(メタボ健診)を実施するとともに、衛生講演会や健康づくり教室の開催などにより健康づくりを支援しています。

### ●労働災害実績

2012年度は、休業災害の発生はありませんでした。引き続き、労働災害ゼロに向けて発生防止に努めてまいります。

# 製品安全への取組み・RC活動トピックス

## 化学品管理活動(GPS/JIPS)

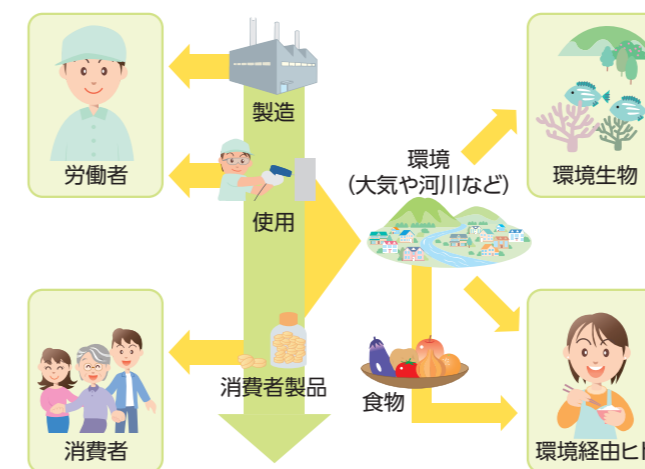
GPS (Global Product Strategy) 活動とは、国際化学工業協会協議会による、世界的規模で化学品管理を強化する活動です。科学的手法に基づく化学物質のリスク評価およびステークホルダーへの情報公開を行うことで、製品の開発から廃棄に至る全ライフサイクルにわたり、環境・ヒト健康・安全を向上させることを目的としています。

JIPS (Japan Initiative of Product Stewardship) 活動とは、日本でGPSを具現化するために、日本化学工業協会が推進している化学品管理の取組みで、化学品

を製造・輸入する企業が、化学品のリスクを最小限にするため、加工・組立・販売業者等の協力のもとリスク評価を行い、情報を公開してサプライチェーン全体で化学品の適正な管理を行うものです。

関西熱化学でも、GPS/JIPSを積極的に推進する三菱化学グループの一員として、自社製品のリスク評価や情報公開に取り組んでいます。2012年度には、コークス製造における副産物の一つである硫酸の安全性について評価・解析し、製品を安全に使用するための情報をGPS安全性要約書の形に取りまとめました。

### GPS/JIPS暴露評価の対象



## RC活動トピックス

### ●第7回関西熱化学グループRC大会開催

関西熱化学グループ各社、各部署のRCに関する活動成果を共有しモチベーションを高めるとともに、優れた活動を水平展開することでグループとしてのRC活動のレベルを向上させることを目的に、関西熱化学グループRC大会を毎年開催しています。

2012年度も11月2日にホテルニューアルカイクにて第7回RC大会が開催され、各社・各部署から現場視点の改善事例10件の発表により、充実した大会となりました。



第7回関西熱化学グループRC大会

### ●RCパトロール

7月の全国労働安全週間に合わせて、加古川、尼崎・中島の両地区においてRC推進会議議長(関西熱化学社長)によるRCパトロールが行われ、各部署ごとに特徴的なRC活動が展開されていることが確認されました。

パトロール後には、朝比議長よりRC活動は経営の根幹であり安全は全てに優先するという力強い宣言が、各現場の作業員への激励のメッセージとともに発信されました。



RCパトロール

# コンプライアンスへの取組み

関西熱化学グループでは、「コンプライアンス」を単なる法令の遵守ではなく、「法令はもとより、企業倫理を含めた社会的ルールを遵守」することとしてより広い意味で捉え、コンプライアンスの確保、推進を図っています。

## コンプライアンス推進プログラム

関西熱化学グループは、1. 自覚・責任、2. 公正・公平・誠実、3. 遵法精神、4. 節度、5. 透明性・開放性を「関西熱化学グループ企業倫理憲章」として掲げ、常に高い倫理観と社会的良識をもって行動し、社会から信頼される企業グループを目指します。

「関西熱化学グループ・コンプライアンス行動規範」「相談・報告制度」など、コンプライアンス推進プログラムを整備し、その適切な運用・管理に努めています。

### 関西熱化学グループのコンプライアンス推進プログラム

基本規程	関西熱化学グループ企業倫理憲章 関西熱化学グループ・コンプライアンス行動規範 関西熱化学グループ・コンプライアンス推進規程
推進体制	コンプライアンス統括責任者(関西熱化学社長) 関西熱化学コンプライアンス推進会議 推進チーム・推進責任者・推進リーダー
啓発教育プログラム	コンプライアンス研修ほか
監査・モニタリング	コンプライアンス監査ほか
相談・報告制度	社内相談制度、ホットライン・システム
違反への対応	原因究明、再発防止、情報公開

コンプライアンス推進会議による定期点検

## コンプライアンス推進体制

関西熱化学社長をコンプライアンス統括責任者とし、統括責任者を議長とするコンプライアンス推進会議を設置しています。

コンプライアンス推進チームは推進会議の事務局となるほか、啓発活動およびホットラインの運用を行うとともに、

全社のコンプライアンスに関する相談の窓口となっています。

また、各部署長およびグループ会社社長を部門推進責任者とし、各部門に部門推進リーダーを置き、日々のコンプライアンスの推進・徹底に取り組んでいます。

## コンプライアンス研修

コンプライアンス推進の基礎となるのは、一人ひとりの意識です。関西熱化学グループでは、従業員意識調査の中でのコンプライアンスについての意識調査、情報端末を利用した全従業員対象の自主研修、推進チームが講師となり管理職を対象にした研修などのコンプライアンス意識の啓発を行っています。

コンプライアンス意識調査の結果については、推進チームより各部署にフィードバックされ、コンプライアンス推進に活かされています。

今後も、コンプライアンス意識を常に高いレベルに保つ取り組みを継続し、コンプライアンスを基盤とした事業活動を継続してまいります。

## 人権への取組み

関西熱化学グループでは、「人権啓発推進委員会」を設置し、「人権啓発を通じて、人権問題を正しく理解し、差別を見抜き、差別を許さない心豊かな企業集団を目指す」という基本方針のもと、従業員一人ひとりの人権意識を高める活動に取り組んでいます。

職場・地域・家庭など、日常生活の様々な場面における人権活動が定着していくよう、ビデオ鑑賞やグループ討議を取り入れた人権啓発研修の実施、社内電子掲示

板などへの人権啓発に関する掲示を行っています。人権活動の推進と人権意識の高揚を目指した加古川市企業人権・同和教育協議会(企同協)による「キャッチコピー」・「ロゴマーク」募集にも積極的に参加しており、2013年度は前年度の2倍近くの応募が集まりました。



人権研修

### (2013年度優秀作品)



# 情報セキュリティへの取組み

関西熱化学グループでは、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)にしたがい、グループの情報セキュリティに関する取り組み方針を定めて運用し、情報セキュリティの強化を図っています。

## 情報セキュリティマネジメントシステム

関西熱化学グループではISMS基本方針のもと、事業活動全般と想定されるリスク全般を考慮して、情報セキュリティマネジメントシステムを構築、継続的に維持・改善を図っています。

関西熱化学グループの推進体制としては、各部署長・グループ会社社長を委員とし、関西熱化学社長を統括責任者とする「情報セキュリティ推進会議」を設置し、情報セキュリティのグループ全体の活動を統括しています。また、同会議の下部組織として各部署に推進担当者を任命し「情報セキュリティ推進担当者会議」にて、具体的な推進計画・実行施策に関する討議・調整、指示事項の徹底、施策進捗管理を行い、より確実な情報セキュリティの強化を図っています。

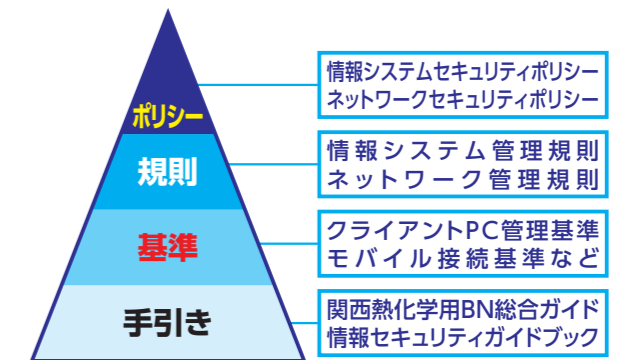


ISMS実施サイクル

## 情報セキュリティ規則

関西熱化学グループでは、2005年に自社の情報システムに関する「情報システムセキュリティポリシー」、「情報システム管理規則」を制定し、システムを利用する際に守らねばならないルールや利用ガイドを記載したデータベースを作成し、情報システムセキュリティに取り組んできました。

さらに2008年には、情報システム以外の情報資産にもセキュリティを拡大、2011年には「情報セキュリティガイドブック」を作成して情報セキュリティの強化を図っています。



規定文書体系

## 情報セキュリティ教育

情報セキュリティトラブルを起こさないためには、規定類を周知するだけでなく、従業員一人ひとりの情報セキュリティに対する意識とスキルを向上させることが重要です。関西熱化学グループでは2013年3月には情報システムを利用する全従業員を対象に情報セキュリティの意識向上と自己点検を目的にイントラネット(企業内コンピュータネットワーク)を使った「ISMS自己点検」を実施しています。さらに、新しく情報システムを利用する新入社員、転入者等には都度「情報セキュリティ教育」を実施しています。また、各部署の推進担当者へは情報システムセキュリティから情報セキュリティへの拡大に向けた「情報セキュリティセミナー」を開催しました。

情報システム技術が向上する一方で、情報セキュリティに関する脅威も多様化・高度化・複雑化しています。関

西熱化学グループでは社内掲示板に情報セキュリティ事故事例などを掲示し、全従業員へ注意喚起を行っています。

今後とも価値ある情報を安全に活用できるように情報セキュリティの意識向上を目指した教育・研修を行ってまいります。



情報セキュリティセミナー



# 社会とのコミュニケーション

関西熱化学グループでは、地域の環境を維持するために周辺の清掃活動を行うほか、地域の子供たちに、ものづくりの楽しさや難しさを体験することを通して、身近な科学技術に興味を持ってもらうための「モノづくり体験教室」や「体験学習生の支援」などの活動や、少年サッカーを通じて児童のふれあいを深め、心身ともに健全な青少年の育成を目指す活動も行っています。

私たちは、今後もさまざまな場面で地域イベントへの参加や地域ボランティア活動への協賛などを通じ、地域社会との共生を図っていきます。

## ●モノづくり体験教室

小学校高学年を対象にモノづくり体験教室を2006年より毎年継続して開催しています。加古川市立別府西小学校および尼崎市立明城小学校では「活性炭の不思議な力」をテーマに電池の製作などを体験しました。従業員の指導を受けながら、みんなで力を合わせて完成したときは教室内に歓声が上がるなど、ものづくりの楽しさや難しさを体験しました。



加古川モノづくり体験教室

## ●体験学習生の支援

1998年から兵庫県下全ての公立中学校の2年生が職業を体験する「トライやるウィーク」が実施されています。加古川工場では継続的に「トライやるウィーク」を支援しており、15回目となる今回は、別府中学校の生徒4名が体験しました。体験学習では油圧・空圧装置の動作やベルトコンベアの動作を見学するなど、ものづくりに使われる装置の動きとその保全の大切さなどについて学びました。



体験学習生の支援

## ●市民スポーツ振興への賛助

加古川市で開催される市後援の加古川マラソン、市民レガッタ大会やツーデーマーチの運営を円滑に行うため、体育班が中心になり、会場設営、交通整理、レガッタ大会の審判団などとして参加協力しています。

また、関西熱化学グループのMCエパテック社サービス事業部では西宮小学生サッカー大会（アクアクララ六甲カップ）へ2010年度より特別協賛しており、一生懸命にプレーする子供たちを応援しています。



アクアクララ六甲カップ

## ●ボランティア清掃

本社地区・尼崎地区・加古川地区・中島地区で、周辺地域や通勤道路などの清掃活動を行い、地域との共生を図っています。



ボランティア清掃

# 2012年度計画と実績・マネジメントシステムへの取り組み

## 2012年度計画と実績

「責任ある自主的な行動により社会からの信頼を受ける会社」を目指し、2002年度から「重大環境トラブルゼロ、保安事故ゼロ、労働災害ゼロ、RCマネジメントシステム構築」を目標に活動してきました。

2012年度の目標と実績は下記のとおりです。

### ●2012年度計画と実績

項目		目標	2012年度実績	掲載ページ
環境保全	環境管理	環境重大トラブルゼロ	環境重大トラブルゼロ	—
	CO <sub>2</sub> 削減	現状維持	2011年度比 10%削減	10
	有害物質排出抑制	PRTR大気排出量削減 ベンゼン環境基準達成	達成	10
	廃棄物削減・リサイクル	リサイクル率99%	99.8%	10
安全衛生防災	防災	保安事故ゼロ	保安事故 1件	11
		設備管理の強化	重大設備トラブルゼロ	—
	労働安全衛生	防災訓練の強化	総合防災訓練等緊急時対応訓練実施	11
		休業度数率ゼロ	休業度数率ゼロ	11
		安全衛生活動の活性化	職場危険作業の抽出と改善実施 安全基本教育実施 RC大会11月開催	11 11 12
品質・製品安全	品質	重大クレームゼロ	重大クレームゼロ	—
	製品安全	品質重大トラブルゼロ 2018年までにGPS安全性要約書完成	品質重大トラブルゼロ 硫酸のGPS安全性要約書完成	— 12
共通	コンプライアンス	コンプライアンスの意識向上	従業員意識調査のコンプライアンス関連項目にて、コンプライアンス意識レベルに問題がないことを確認	13
	社会とのコミュニケーション	地域ボランティア活動	地域清掃、地域行事への参画	15
	RCのグループ会社への展開	グループマスタープランに沿ったRC活動の実施	グループ会社毎の個別活動の展開	17

## マネジメントシステムへの取り組み

関西熱化学グループでは、PDCA（Plan-計画、Do-実施、Check-確認、Act-改善）を組み込んだ環境マネジメントシステム（ISO14001、EA21）、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSAS18001）、品質マネジメントシステム（ISO9001）を基本とした仕組みを積極的に取り入れています。

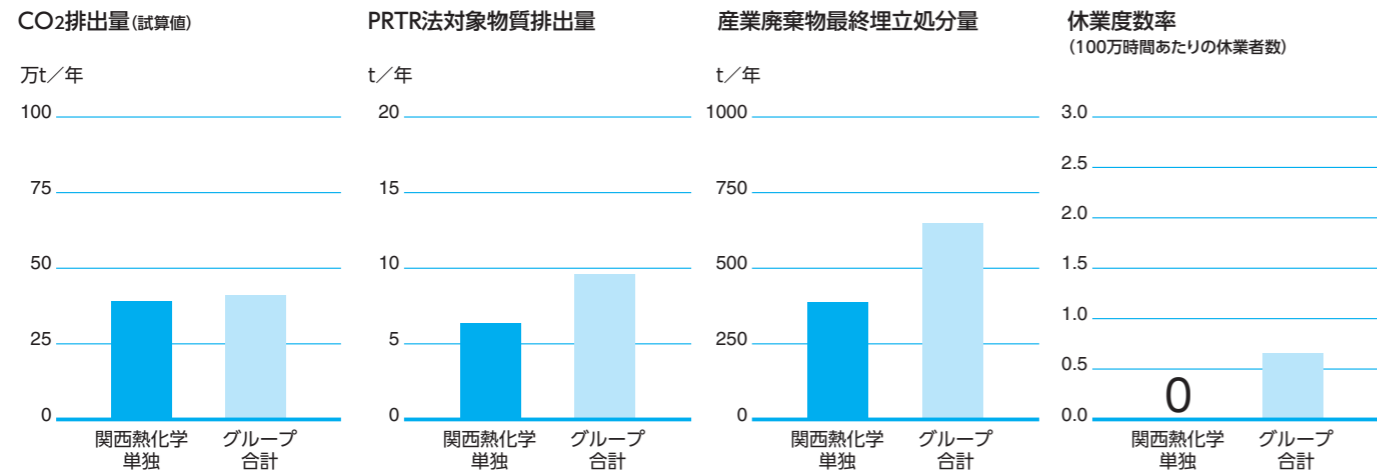
### ●関西熱化学グループ マネジメントシステム規格に基づく認証取得一覧表

規格	認証場所
ISO14001	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエパテック 尼崎事業所、加古川事業所、東日本・中部事業所
	大阪化成(株)
	関西熱化学(株) 本社、研究開発センター (株)MCエパテック 本社
エコアクション21 (EA21)	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエパテック 尼崎事業所、加古川事業所
	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエパテック 炭素材事業、アクアクララ六甲事業、ソフトウェア事業、精密洗浄事業、加古川分析センター、尼崎分析センター、東日本・中部事業所
OHSAS18001	関西熱化学(株) 加古川工場 (株)MCエパテック 大阪化成(株)
	尼崎事業所、加古川事業所
	尼崎ユーティリティサービス(株)

# グループ会社のRC活動への取組み

## グループの主要な環境・安全パフォーマンス指標比較

当社と一体となった推進体制で運営しており、グループ会社ごとに事業内容に応じた特徴ある活動を展開しています。

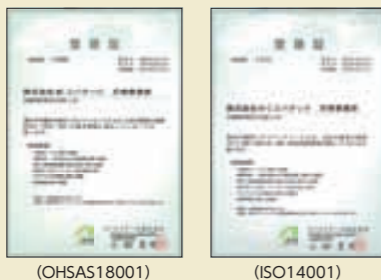


## グループ会社の環境関連技術とRC関連情報

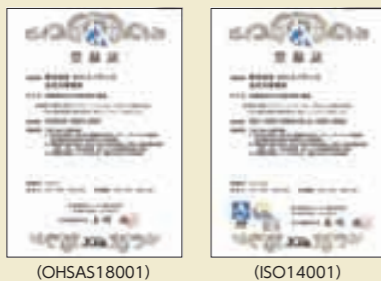
### ●株式会社MCエバテック

■本 社 兵庫県尼崎市潮江1丁目2番6号  
TEL 06-4300-5442 (代表)  
■代 表 者 取締役社長 朝比 栄一 (あさひ えいいち)  
■設 立 1979年 (昭和54年)1月  
■資 本 金 2億8000万円  
■事業内容 炭素材事業、精密洗浄事業、分析事業、  
総合サービス事業 (不動産業、飲食業、  
ソフトウェア開発、飲料水製造販売、澱粉詰め替え)

#### 尼崎マネジメントシステム登録証



#### 加古川マネジメントシステム登録証



### 環境関連技術

- 〔炭素材事業〕
- キャパシタ用高機能活性炭製造 (省エネ型電池技術)
  - 使用済活性炭の再生利用 (活性炭再生技術)
- 〔精密洗浄事業〕
- 半導体・フラットパネルディスプレイ関連装置の精密洗浄 (再生利用技術)
- 〔分析事業〕
- 環境分析および作業環境測定 (環境分析技術)
- 〔総合サービス事業〕
- 安全・安心な水の製造販売 (飲料水製造技術)
  - 安全・安心な澱粉詰め替え (衛生管理技術)
  - プラント・工場の監視、制御システム開発 (ソフトウェア開発技術)

### RC関連情報

- 分析事業業務のエリア拡大
  - ・2013年10月より東日本・中部事業所を拠点としたエリア拡大業務の運用開始
- マネジメントシステム
  - ・尼崎事業所、加古川事業所とも独自の労働安全衛生マネジメントシステムおよび環境マネジメントシステムを認証取得し、運用中
  - ・品質マネジメントシステムとあわせ、主要三マネジメントシステムを運用中
- 環境
  - ・尼崎事業所精洗部:従来産業廃棄物としていた物の中より有価物を選別して、廃棄物の削減を実施中

### ●大阪化成株式会社

■本 社 大阪府大阪市西淀川区中島2丁目6番地11号  
TEL 06-6474-3621 (代表)  
■代 表 者 取締役社長 吉田 康夫 (よしだ やすお)  
■設 立 1946年 (昭和21年)4月  
■資 本 金 6000万円  
■事業内容 生活環境製品事業、炭素製品事業、  
特薬事業、生物検査・評価試験受託業務



抗菌剤 (インプロ)新工場

### 環境関連技術

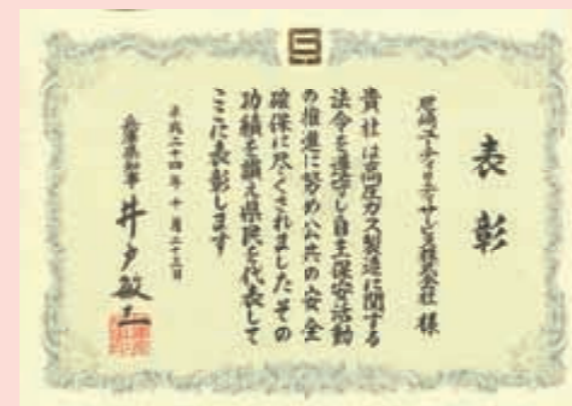
- 抗菌剤 (インプロ)新工場
- 薬用ハンドソープ用途の殺菌剤の製造 (抗菌剤製造技術)
- 専用抗菌剤の製造 (抗菌剤製造技術)
- 動物忌避剤の製造 (忌避剤製造技術)

### RC関連情報

- 品質
  - ・抗菌剤新工場稼働による製造能力の増強
  - ・国外輸出先に合わせた化学品管理対応 (GHS、REACH)実施中
  - ・外注先監査強化による品質クレーム予防処置対応 (品質管理指導強化)
- 安全保安防災
  - ・危険物老朽化タンク設備の整備による保安事故予防
  - ・トライアルにより納め得る安全ルールを設定し、全員で遵守する活動推進
  - ・トルエン回収設備の運転改善による回収率の向上

### ●尼崎ユーティリティサービス株式会社

■本 社 兵庫県尼崎市大浜町2丁目30番地  
TEL 06-6416-0164 (代表)  
■代 表 者 取締役社長 筑紫 幹二 (ちくし かんじ)  
■設 立 1993年 (平成5年)10月  
■資 本 金 1億円  
■事業内容 電気・蒸気供給事業



高圧ガス優良事業所表彰

### 環境関連技術

- 高効率ガスタービンコージェネレーション発電 (発電設備運転技術)
- 低圧蒸気活用による「スチームスター」による発電 (発電設備運転技術)

### RC関連情報

- 安全
  - ・1993年創業以来20年連続無災害継続中
  - ・兵庫県知事高圧ガス優良事業所表彰 (2012年10月)
  - ・リスクレベリング低減活動例:
    - ① ガスエンジン室の高所に取り付けられたガス漏洩検知器の点検作業時の墜落落下のリスクを、検知器を低所に移動させることにより無くした。
    - ② プラスチック製タンクの上部踏み抜き落下事故を予防するため、タンク上部に上れない構造に変更した。上部点検が必要な場合は都度足場を設けることとした。
- 品質
  - ・ガスエンジンを起動する場合に停止してしまうトラブルの原因を究明し、不要なインターロックを解除することで停止トラブルを大幅に削減した。